2022.08.07 なぜ祈りがそれほど強力なのか

ヤコブ 5 章 13～18 節

JD ファラグ牧師

8 月 18 日木曜日を空けておいてください。木曜日の夜は「エレミヤ書」を学んでますが、それに代わり、証し会を開催します。放蕩息子のために祈る両親の、力強い証しです。特別な集会で、本当に楽しみです。1 週間後の木曜日、18 日です。ご両親とガブリエルに来てもらい、我儘娘や放蕩息子を決して諦めなかった力強い証を語ってもらいます。彼は、LGBTQ のライフスタイルに入っていたのです。ー 拍手 ー 18 日木曜日の夜、ライブ配信します。その為、通常は 7 時から賛美が始まり、7 時 30 分から説教しますが、しかしその日は、午後 7 時から始めます。午後 7 時からライブ配信始め、ユーチューブやフェイスブックでご覧の方は、7 時から視聴開始できます。1 時間半の大半を使いますから、皆さん、夜中 12 時には帰宅できるでしょう。ー(笑)ー　とにかく、本当に楽しみです。神がなさっておられる事に大変興奮します。重要ポイント＝神がなさること。ですから、間違いはありません。

それでは！「ヤコブの手紙 5 章」です。この書簡も、まだありますが、あともう少しで終わりです。では、5 章 13 節から 18 節をお読みします。可能な方は、ご起立して私が読むのについてきてください。無理な方は、、、着席したままで結構です。取り上げる箇所は、待って。どうなってる？　13 節からです。ヤコブが聖霊によって、こう書いてます。

ヤコブ　5

13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

14 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くと大きな力があります。

17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

祈りましょう。よろしければ一緒にお願いします。

天の御父よ、感謝します。主よ、特に私たちの前にあるこの箇所、聖霊が私たちの注意を引き、保持下さらなければ、あなたが私たちに示されたい力強い、人生を変える何かを見逃すのを痛感します。ですから主よ、どうか、そうしてくださいませんか？　あなたが語られたい事から、私たちを遠ざけ、心を乱すものが何であれどうか取り去り下さい。

主よ、聖霊の静かで小さな声で、はっきりとお語りください。主よ、あなたがそうされるとき、私たちはただ聞くだけでなく、あなたの御言葉に従いたいのです。主よ、お語りください。あなたのしもべたちは聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。今日、お話ししたいのは、単に祈りの力についてだけではありません。それはほとんど決まり文句になっていますよね？「祈りには力がある！」なぜ、祈りには力があ

るのか、その”理由を”お話したいと思います。そうすることで、よく考えてほしいのですが、神の御言葉や救いとともに、祈りは、実は私たちの最も貴重で強力な財産なのです。あなたは信じますか？（会衆：アーメン）
もし、あなたが「一番大切な財産は何？」と聞かれたら、どう答えますか？　あなたが持っている最強のツール、これからお話しするように、武器は何ですか？「お～武器を持ってるのですか？」ええ、そうですよ～。「祈り」です。前置きがかなり長くなっているのは分かっていますが、ここに真理があります。祈りがこれほど強力であるのは、理由があります。実に、今日の私たちの前にある御言葉箇所に、5 つ見つけました。その 5 つの理由とは.....はい、祈りには力があるのは同意します。祈りには力がありますが、その理由を見てみましょう。なぜ、祈りはそれほどまでに強力なのでしょうか？　ヤコブは聖霊によって、13 節の最初の部分から、それに答えようとしています。当たり前のことを言うのように聞こえるかもしれませんが、神の助けを頂くため、祈りは大変強力です。私たちは、神が全能であられるのを知っていますね？　ですから、私たちが祈ると、私たちは、全知全能の神にアクセスすることになります。
私たちは、自分自身を言わば、その動力源と結びつけています。こんな例を許してほしいのですが、ちょっと興味深いのが、電源パワーが下がると、充電器を使いますね。電池やそのデバイスを充電して、100%にします。しかし、その後また減っていきます。では、どうするかというと、また充電します。これはどうでしょう？　接続したままにしておけばいいのでは？　分かってます。もっといい例があれば、ぜひ教えてほしいです。私たちが祈ると、私たちに入手可能な、最も強力な動力源に接続しているのです。なぜなら、主は全能だからです。私たちが助けを必要とするとき、「今、私たちは助けが必要ですよね。」助けてくれる誰かのところへ行きませんか？　私たちが困っている時、助けられない人、必要な助けてくれる物がない人のところへ行こうとは思いません。私たちは、助けられる人のところそれ以上の人のところへ行きます。「私は力が欲しい。助けが必要です。パワーが必要です。」「わたしはここにいます。いつでも対応できますよ。あなたがすべきは、だた求めることです。」このように言わせて下さい。私たちは無限にアクセスできます。留守電に繋がることはありません。私たちは、助けが必要とするとき、私たちが必要な全てを持っておられる全知全能の神に、自由にアクセスすることができます。からかってます？　私たちは、神の助けが利用可能なのに神に助けを求めないですって？　祈りは、どうなってしまったのでしょう？　この力の源にアクセスできることを知っていながら、そうしないとは、クリスチャンの生活において、祈りはどれほど衰退し、価値を下げ、軽んじられてきたのでしょうか。
「エペソ人への手紙 6 章」、私たちがよく知っている聖書箇所です。私たちは親しみを込めて「霊の武具」と呼びます。神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉ではなく...“格闘”というのは重要な言葉、正しい翻訳で、一種のゲームチェンジャーで、霊的戦いの様相を変えます。なぜなら、戦い（バトル）と言ったら、戦いですよね。格闘と言うと、それって全身ですね。全身の筋肉を使い闘います。レスリング。レスリングを知っている方はご存知でしょう。格闘をするのは、人に対してではなく、格闘する相手とは、パウロは、霊的な領域で、異なるランクの 4 つの存在を挙げ、説明しています。そして彼は続けて.....私たちは、それをよく知っています。もしかしたら、よく知りすぎていると言えるかもしれません。私たちは、「救いの兜」について知っています。それが私たちの思考を守るのを、知っていますね。私たちは、心を守る「正義の胸当て」を知っています。私たちは、「平和の福音の備えの履物」を知っています。私たちは、「信仰の盾」を、すべての上に固定され、さね継ぎされ、悪い者が放つ火矢を、すべて消すのを知っています。私たちは、武具の中で唯一攻撃的な武器、「御霊の剣」を知っています。私た

ちは「真理の帯」も知っています。真理の帯が全てを一つに纏めるのですよ。それを考えてください。（御霊の）剣が真理の帯の中にあります。胸当ては帯に繋がっていて、履物は上で繋がり、盾は帯と繋がっています。帯が全てを１つに繋げています。「真理の帯」と言われるのも頷けます。それが、すべてを繋げています。私たちは武具について大変よく知っています。もしかして、知りすぎているかもしれません。しかし、あまり語られないのが、どのやって霊的武具を装着するのかです。どのやって使いますか？「祈り」です。使徒パウロがこの霊的武具の比喩を語った後、「いつも絶えず祈りなさい」と続けるのは、非常に興味深いです。それが、霊の武具を身につける方法です。つまり、こう考えてください。私はここにいて、武具を着用しています。剣は手に入れたし、、、でも使っていない。私はただ、そこに立っているだけです。私が祈らないときは、私に与えられた自分の武具、武器を使っていないのです。それが私たちの武具の着用方法、それが私たちの武具の使い方、「祈り」です。「祈り」なのです。特に、私たちが攻撃を受けているとき、霊的な攻撃を受けているとき。しかし私たちは、なぜこのようにどんなことでも、いつでも神のもとに来るよう私たちに開放的な申し出下さる全能の神へのアクセスするのでしょうか。神はいつでもそこにおられ、待っておられます踏み込んで言うと、約束しておられます。

「もしあなたが、いつでもどんなことでもわたしのところに来て、あなたがわたしに求めるどんなことでも、　それが父なる神のご栄光になるならば、決まりです。」

ヤコブは言ったばかりです。

「自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。」（ヤコブ　4：2）

もう一度、この話に戻りましょう。自分自身に正直になれば、ここにいる私たちの中で、私も含めてですが、助けが必要な状況で、神に助けを求めなかった人はいないと思うのです。ここに私の神、私の主、私の救い主、私の王の王、私の主の主がおられ、私をとても愛しておられ、そこで待っておられます。

「わたしのところに来て、求めなさい。わたしがあなたを助けます。」しかし、私たちは、誰かを呼んで、助けを求めてしまう。主はまるで、「あ～あ。わたしは.....ただ、わたしに求めなさい。」

私が考えるには、神は時に、私たちの人生に、困難な状況を許されます。その理由は、私たちが神のもとに助けを求めるよう仕向ける以外ありません。「ヘブル人への手紙」を一緒に節ごとに学んだ人、4 章 16 節です。これは、多くの人の人生の聖句で親しまれています。ヘブル人への手紙の著者は、こう言います。

ヘブル　4

16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に/信頼し（→覚えておいてください）**恵みの御座に近づこうではありませんか。**

この聖句の生地に答えが織り込まれていますので、説明します。もしかして、私たちが祈って主のもとに行き、助けを求めないのは、主が助けてくださるというこの”信頼”がないからではないでしょうか？　私たちはこの、ええ....もっと良い言い方が見つかりませんが、聖なる力、聖なる大胆さをある翻訳では、"大胆に、御座の前に出る "と表現しています。なぜなら、あなたは今、アクセス出来るからです。あなたを隔てるものは何もありません。覆いは剝ぎ取られています。一年に一度の、ヨム・キプールまで待たなくてもいいのです。自由にアクセスできますから、いつでも入れます。「いつでもわたしを呼び求めなさい。”信頼して”わたしのもとに来なさい。」これは自信の問題ではありません。信仰と信頼です。

「私は、主のもとに行くことができ、唯一の真実に、確証と信頼を持てます。」「私が助けが必要な時、神が私を助けて下さるのを信頼します。」そして、もう１つ。以前にもお話したことがあるのですが、私個人にとって、人生を変える出来事で、特に祈りに関して、皆さんの励みになればと思います。神は、私た

ちのあらゆる祈りに、神がご存知な事を私たちが知っていたなら、私たちの祈りに自分が答えるのと同じ方法で答えて下さいます。神は全能なだけでなく、全知であられ、初めから終わりまで知っておられるからです。時に私たちは、神のところに行き、願います。しかし、神は私たちの祈りに、私たちのやり方で、私たちの時に、私たちの色で、私たちの好みでは応えられません。私たちが自分の好き嫌いを設定しても、神は、その設定に応えられません。なぜか？　お～あなたが知っていたなら、、、時々想像するのですが、これはあくまでも、私の考え方です。私のために祈ってください。臨床用語があるのは分かっています。想像してしまうんです。神は、こんな感じで、
「あなたは、その祈りに答えてもらいたくないはずです。」「あなたが、わたしのもとへきてほしいのですが、しかし、もしあなたが、わたしが知っている、これから起こることを知ったら、そのように祈らないでしょう。」
ですから、神が答えてくださった祈りにとても感謝しますが、神が答えてくださらなかった祈りにも、とても感謝する、という風に言うのです。なぜなら、もし神がその祈りに答えてくださっていたら、大惨事になる可能性があったからです。神はそれを知っておられます。それに、タイミングの問題もありますよね？　私たちが焦ってしまいます。神がその祈りに答えるため、ご自分のタイミングを待っておられるかもしれないからです。そして、真実は、神がその祈りに早々に答えて下さることをあなたが望んでいないのです。待つことに関して多くの決まり文句があり、　「神の遅れは、拒絶されているのではない。」
イザヤ書 30 章 18 節だったと思いますが、
「それゆえ【主】は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、」
待つことは、神の恵みであり、神のタイミングです。神のタイミングは、いつも完璧です。神は決して遅れられないし、決して早過ぎることもあられません。ですから、私たちが主のもとに行くとき、主が私たちを助けてくださるというこの大胆さ、信頼を持つのです。しかしそれは、神のご栄光の為神のご方法とタイミングでなされます。でも神に預けるだけです。この不朽の賛美歌を思います。「いつくしみ深き、友なるイエスは」
♪　お～　不要な苦しみを私達は背負うけれど、♪
♪私達には耐えきれないから何もかもを祈りで、神にゆだねます。♪
ここで神はただ仰います。「わたしのもとに来なさい。わたしはあなたを助けます。必ず助けます。あなたが困っている時、わたしは必要なものを全て持っています。ただ、わたしに求めなさい。わたしはあなたを助けたいのです。あなたをとても愛しています。あなたを助けることは、わたしにとって大きな喜びで、楽しみなのです。なぜ、わたしのところに助けを求めて来ないのですか？」
ここで 13 節の後半で、なぜ祈りがそれほど強力なのかについて、2 つ目の理由があります。これについて説明しますが、シンプルに「神の御前」です。よく聞いてください。ヤコブは、まず言うのが、
「誰でも、、、このように始まるのがうれしいです。「あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。」それは私です。私は祈ったほうがよさそうです。
しかし、その後、「あなたがたの中に、幸せな者、喜んでいる者がいれば主を賛美しなさい。」と言っています。ちょっと待てください。主を賛美することは、賛美の祈りだと知っていますか？　私たちが歌うとき、実は、主への賛美の中で祈っているのです。今、それを理解せねばなりません。なぜなら、なぜ祈りがそれほど強力であるのかということに関わるからです。神は、ご自分の民の賛美の中に住まわれます。
ところで、これはなぜかというと、木曜日の夜を例にとって説明します。

「仕事から帰って、聖書の学びをしたいけど今日はキツイ一日だった。」帰宅し、食事という致命的なミスを犯します。眠気を催すので、食べてはいけません。その上座ってしまうと、次のミスです。こうなります。「あ”～私は疲れている。お腹いっぱい。オンラインで見ようかな。」誰かのことではありません。誰も見ていません。ただ、言ってるだけです。ちなみに、ここで言っているのは地元の会衆のことですよ。でも、あなたが起き上がって、車に乗り、教会に着き、カポノが現れて、賛美が始まるとこうです。「あぁ～」全てが変わります。つまり「わあ、来てよかった。」と思うのです。お～興味深いですね。もしかして、それは敵だったのかも。頼みますよ。だからじゃないですか？　サタンは、あなたや私よりも聖句をよく知っています。サタンは、祈りの力をよく知っています。それが決め手だと分かっています。だから、あなたが祈るために準備を整え、時間を取ると、「H・E・ホッケー棒 2 本/HELL」＝地獄　が始まります。そんな風に言って、良いですか？　なんなら、爪楊枝 2 本でもいいですけどね。要点はわかりますよね。電話が鳴ったり、子どもが喧嘩したり、何かが起こるでしょう？　それは敵です。眠くなる、それが敵です。敵は、あなたが教会に行って主を賛美し、礼拝することを望みません。なぜなら彼は、それが決め手だと知っているからです。神はご自分の民の賛美に宿り、私たちが主を賛美するとき、主の臨在がこの教会にあるのです。「詩篇 22 篇 3 節」です。

詩篇　22

3 けれどもあなたは聖なる方御座に着いておられる方イスラエルの賛美です。

そう、これを見てください。

詩篇　16

11 あなたは私にいのちの道を知らせてくださいます。満ち足りた喜びが”あなたの御前”にあり楽しみがあなたの右にとこしえにあります。

では、これを整理してみます。どういう仕組みなのか。私は主を褒めたたえると、主はその民の賛美に宿られ、主の御前がそこにあり、私は喜びで満される。私が祈ったり、賛美したりするのを敵が嫌がるのは当然です。主が私を満たしてくださることを知っているからです。つまり、物理的に、すべてが変わるのです。疲れですって？　それまでは、目が、、目蓋を見開く何かが必要で、あくびが出て、、で、ここにたどり着くと、今や、手も挙がり、もはや、あくびも出ない。これまで以上に主を賛美しています。実際に物理的、生理的、神経学的に影響を及ぼします。知ってましたか…？　あまり深入りしたくないのですが、色々学びました。私が学んだことの 1 つは、たくさん学びましたが、私が学んだことの 1 つは、歌い、主を賛美するとき、実は、両脳を使っているんです。私は自分の脳の使い方に関しては、得られるすべての助けが必要ですが、ご存知ですか。研究しているのは、クリスチャンではない一般の研究者ですが、私たちの脳や思考の中に、音楽を楽しむ配線があることを発見したのです。ほとんど私たちは、礼拝するために創造されたのです。私たちは礼拝をしなければならないのです。それは、するかどうかが問題ではありません。問題は、何を、誰を礼拝するのか、ということです。なぜなら、私たちは礼拝するように創られているからです。だからこそ、ここに自分を引きずり込むと、長い一日を過ごし本当に疲れていていても、主を賛美し始めると、来てよかったと思うのです。つまり、主のご臨在がこの場所にあり、満ち足りた喜びが湧き起こります。そして、あなたの存在そのものを変え、感じ方、考え方が変わります。もう少し続けます。沢山ありますので。2 回に分けて学ぶべきだったかもしれませんが、一回に纏めてみます。2 時くらいには終わりますよ。14 節、「神の癒し」をお話ししましょう。さて、ここでヤコブは、誰かが癒しを必要としているときにどうすればよいかを、具体的な事例で提示しています。私たちは教会とし

て、これを行います。頭に油を注がれます。当時、彼らは油を注ぐ……今の時代、そんなことしたら、ひっぱたかれるかもしれませんけど。しかし、彼らは実際にその人に油を注いだのです。つまり、彼らの髭を滴らせ、もちろん、髭があると仮定してですが。聖霊の象徴である油を塗るのです。ちなみに、油自体何も不思議な物ではありません。「ねえ、彼らのその油が欲しい。」ではなく、油は聖霊の象徴で、油を注いで、手を置いて、祈るのです。そして、次の節にあるように、信仰を持って捧げられた祈りは、病人を癒します。それくらい、祈りには力があります。祈りはとても強力なので、病人に、神の癒しをもたらせます。ここで問題があります。私が何を言いたいか分かると思いますが、悲しいことに、このことが、「十分な信仰さえあれば癒される」という多くの偽教義を生み出す原因になっているからです。
「まだ癒されませんか？信仰が足りないのでしょう。」と。私たちはそれを、「Word of Faith 運動」で知っています。または、ある人が皮肉たっぷりに言った通り、名付け、主張し、それを口にし、掴み取る。それは偽りの教えです。「神は、すべての人が癒されることを望んでおられる！」え、そうなんですか？「そう、十分な信仰があればね。」そして、彼らはこの節を言い訳に誤引用します。それが問題です。
聖書を通して、信仰を持った多くの人が、つまり信仰を持った男女が癒されなかったという記述がたくさんあり、その代表が使徒パウロです。「第二コリント人への手紙 12 章」に注目ください。よくご存じだと思いますが、ここで指摘しておきたいことがあります。7 節から、使徒パウロは聖霊によって、こう言っています。
II コリント　12
7 その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、（ある翻訳では、「甚だしい高ぶり」と表現しているものもあります。）**私は肉体に一つのとげ**（それはギフト）**を与えられました。**（そんなギフトどうです？）**それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。**（私はそんなギフトは結構です）
8 この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。
パウロは祈り、神に懇願しました。そして、主の応答はどうだったのでしょう？
「さあ、パウロ、もっとうまくやるんだ！　十分な信仰を持ちなさい。そうすれば、わたしはあなたを癒そう。ああ、そうだ。」ごめんなさい。やりすぎましたね。いいえ、それが主の返答ではありません。
9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。”わたしの力”は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。…
…ですから私は、”キリストの力”が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。
10 ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。
「では牧師さん、それで何が言いたいの？」私が言いたいのは、信仰がある人がいるとしたら、それは使徒パウロだったということです。いいですか？　同意しますか？　ええ、パウロは悩み、苦しみます。そして、お～ちなみに、私たちにはこの棘が何だったのか分かりませんし、それを解明しようとするのはやめましょう。つまり、思い上がってこう推測する解説者が後を絶ちません。「その棘の可能性はさ～こうだと思うんだよね～。」やめてください！　神が私たちに具体的なことを知らせられたかったら、パウロにもっと具体的に書くように霊感を与えたと思いませんか？　パウロ、それって何だったのですか？それがない理由はこうです。もし私たちがそれが何か分かって、自分が苦労するようなことでないなら、見逃したでしょうから。「お～、私はそれで苦労はしてないね。残りの章には何と書いてあるの？」と。

そうじゃなく、一般的なものに、具体的にしないことで、私たちは聖霊に埋めていただく余地を与えるのです。あえて言うなら、ここにいる私たち、あるいはオンラインで見ている方たちの中で、棘のない人は一人もいないでしょうから。そして私たちは、求めてきました。「神よ〜〜お願いします！」今、人のことだと思っている人もいるでしょうね。自分の上司とか。う”〜　神よ！　○□▲X○□▲X 主はそれを聞かれません。なぜか？　なぜなら、それが力がある場所だからです。そう、これはとても強力だから、これを除いてしまったら、終わりです。「あなたは傲慢になり、自分で満載になり、高ぶります。あなたは非常に自分を高く上げてしまう。あなたは自分を高く上げ、わたしには、あなたを謙遜にする選択肢が他にありません。」神は、高ぶる者を謙虚にし、謙虚な者を高くされるからです。ちょっと待ってください。なぜパウロが高慢になりやすいのですか？　お〜14 年前のことを、パウロは、ひと言も発しません。そして、いざ話す時には、まるで無理矢理言わされたような感じで、言う事がとても不本意なのです。パウロは、この出来事について、三人称で言及します。自分のことを三人称で語ります。
「この人は、第三の天にまで引き上げられ見せられました。」（第二コリント　12：2 参照）
つまり…。その啓示のせいで、自分が高ぶらないよう、、、私だったらきっとそうしたでしょう。本を書いていたかもしれません。講演ツアーもしたでしょう。自分のことで満載だったでしょう。しかし、神はこうです。「いけません。あなたを滅ぼすこの高ぶりからあなたを守ります。ですからパウロ、あなたはわたしに、これを取り除いてほしくないはずです。」「ええ、でもそれが私を苦しめます。」しかし、パウロはそれを解決しこう言います。「OK。分かりました。実際、私は神にそれを取り除いて下さるよう祈る事から、神がそれを取り除かないように祈ります。なぜなら、もしあなたがそれを取り除いたら、、、、なんと言う事でしょうか。ですからこれで、私を謙虚にし続け、あなたに依り頼み続けられます。あなたがこれを許しておられるから、毎日私を苦しめます。サタンからの使いに他なりません。それが神から私に与えられました。なんという贈り物でしょう。そう今は、贈り物だと分かります。これは贈り物で、私には必要なものなので、どうか取り除かないでください。」
なぜなら、この弱さの中に、この試練の中に、この困難の中に、この状況の中に、あなたは自分の人生において、何であれおそらく何年も祈り続けてきました。そして、神よ、その祈りが天井から跳ね返ってくるようです。繰り返しますが、神はあなたの祈りに答えてくださいます。もしあなたが神がご存知な事を知っていたら、あなたが自分の祈りに答えるのと全く同じ方法で。そして、主はご存知です。その状況を解決するには、その隣人を動かし、申し訳ないが、その上司を殺し、彼をそこから追い出して…ああ、ごめんなさい。ただ棘を取り除くだけだと。その棘が何であれ、空白を埋めれます。神は知っておられます。
「いいえ、パウロ、あなたはわたしに望んでいません。そこにあなたの力の源があるのです。なぜなら、その苦しみ、その弱さの中で、あなたはわたしの恵みにアクセスするのです。そして、その棘があるからこそ、あなたの苦労の中で力が完全に現れます。」
私はもう一本、棘が欲しいくらいですよ。OK。勧めないで。やりすぎですね。15 節と 16 節には、もう一つ厄介なことが書かれています。「神の赦し」と関係します。そう、ここでもまた、キリストの体で多くの偽教義の源となってきた有名な聖句があります。「信仰さえあれば神が癒してくださる」というのが一体化しています。私が話しているのは、病気の原因が告白していない罪のせいだと信じて、欺かれている人々のことです。ここでさっと言わせて頂くと、罪の結果が、病気や疾患をもたらすことはあっても、病気を罪のせいと断定はできません。この聖句もまた「病気になるのは、人生に罪があるから」という偽教義の代表的な聖句の一つです。実話です。聖霊が誰かのためにこれを共有するよう促されて

いると思います。私たち夫婦は、子どもを授かるまでに 10 年かかりました。私たちは原因不明の不妊と呼ぶ診断を受け、基本的に不妊が原因不明です。本当にありがとう。いくら払えばいいですか？　ですから、もちろん、すべての推奨事項、養子縁組や、また、これをやってみたらどうか？とか、選択肢はいくつかあります。私たちは教会に行き、友人たちは皆……。もう 10 年になるんです。結婚して最初の 10 年です。今年で結婚 34 年目になります。ごめんなさい。すっと出てこない。妻が礼拝に来ていなくて良かった。しかし、34 年です。結婚して最初の 10 年間、子どもがいませんでした。そう、妊娠しても流産、1 度は、子宮外妊娠でした。教会に行くと、友達はみんな双子や子どもたちがいて、新しいベビーカーが置いてあって、ミニバンを買って、駐車場で私たちの隣に停めて、、、に～ににに～ん、です。そして、あるキリストの兄弟が、実はこの人のことをよく知っていて、私に子どもがいない、できない理由は、「君の人生に罪があるから。」と言っただけでなく、幼馴染なので、実際に、私の人生の、具体的な罪を指摘しました。（は～？）ああ、あれは…そうだ…こいつは…。「さがれ、サタン。」ありがとう、兄弟。友達って何のためにいるのでしょう？　もし私が告白しなかったなら、良くて不誠実、悪くて不正直ですが、それは私を大変傷つけ、酷く苦しめました。だから、全部告白します。「主よ、私が 4 歳の時に盗んだお菓子のこと、ごめんなさい。」そして、私は自分の人生を振り返るのです。何年もかかりました。
全部カバーできなかったので……。しかし、主は私に導いて下さいました。「違う。そのせいではありません。それが理由ではありません。」と。「ヨハネの福音書 9 章」の記述、1 節から読みます。

ヨハネ　9

1 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。

2 弟子たちはイエスに尋ねた。『先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。』

これは悪い神学です。それが、ここに座っている人か、オンラインで見ていて、こう考えている人ならイエスが与えられる答えに基づいて、今ここでそれを止めることができます。
「どちらでもありません。」（ヨハネ　9：3 参照）
どうです？「どちらでもありません。」これは、罪のせいではありません。「この人が罪を犯したのではなく、その両親でもありません。」世代を超えての呪いという偽教義には触れませんが、おお、わお～皆さんその反応なら、今、話した方が良さそうですね。「出エジプト記 20 章」の戒めにあるものです。注意して読まれましたか？「主は咎を及ぼされる」というのが、彼らのお決まりの節です。「お～何代も呪いにかかるぞ。あなたの曾祖父が…。」まあ、何かあったかもしれませんが、主は、子らの咎を三代に至るまで、彼らに憐れみをくださるのであって、彼らを呪うためではありません。「おじいちゃんの罪、父の罪を償え！」違います！！！　すいません。話が脱線しました。いいえ、世代に関係ありません。想像してください。十字架上のイエスを。「完了した、世代的な呪いを除いて。」それが問題です。あなたは対応せねばなりません。違いますよ。聞いて下さい。私たちの両親は、多分彼らはあるものにハマって、それが私たちを台無しにしました。そう、そこには咎がありますが、主は私たちに憐れみを示すために来てくださいます。ですから、あなたが苦しんだり、病気になったり、それはあなたの人生に告白されていない罪があるからではありません。どちらでもありません。では、なぜ彼は盲目で生まれてきたのでしょうか？お～、よくぞ聞いてくれました。

ヨハネ　9

3 この人に神のわざが現れるためです。

彼はこうやって生まれてきて、わたしが彼を癒すことができます。それが理由です。罪のせいでもなく、本人の罪でもなく、両親の罪でもありません。
「ちょっと待ってください、牧師さん。聖書の中でイエスが人を癒される場面で、「起きて歩きなさい」ではなく、「あなたの罪は赦された」と仰られるのはどうでしょうか？」
群衆の家の屋根から、カゴに入れてつり降ろした男を、イエスは癒されましたが、その男に「あなたの罪は赦された」と仰られたことを思い出します。（マルコ 2：4）
ここで、おそらく彼をカゴに入れた友人たちが言います。「いや、それは違う。彼を癒す必要があるのです。」そして、主は「あなたの罪は赦された」と仰います。待って、待って、待って。せっかく屋根からつり降ろしたのに…その家の所有者へ屋根を新しくする義務があると思います。しかし、主は仰います。彼らはそれを主に挑みました。そして、主の応答はこうです。
「あなたの罪は赦された」と言うのと、「立ち上がって歩きなさい」と言うのと、どちらが易しいか？（マルコ　2：9）
つまり、罪のせいなのです。だから、病気や疾患が直接の罪の結果である場合もあるのです。そして、「ヨハネの福音書 5 章」にこの記述があります。38 年前から患っている男がいて、迷信的なベテスダの池で待っていました。ベテスダ。アラビア語です。一緒にイスラエルに行った人は、この場所を見に行きましたね。水がかき回される時に、どうにかして水の中に入ることができれば、癒されるという迷信がありました。それで、この男は色々怪しい迷信的なものにハマっていたんです。そしてこの特別な祝日、イエスが通りかかり、彼が横たわっているのを見て尋ねられました。私はこのことに興奮しますが、主は基本的に彼に尋ねられます。
「良くなりたいか？」（ヨハネ　5：6）
「私が良くなりたいかどうかですって？」で、彼の答えはこうです。
ヨハネ　5
7 主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。
イエスの返答は、「どうしろというのだ？あなたを投げ入れて治せというのか？」違います。ー(笑)ー
8 イエスは彼に言われた、『起きて床（ござ）を取り上げ、歩きなさい』
9 すると、すぐにその人は治って、
14 節、イエスは神殿で彼を見つけられ、皆に告げられます。「誰がこんなことをしたのか。」と問いただされているのです。誰がこんなことしたのでしょう？　宗教指導者を愛さなきゃ！ですね。そして、彼は言いました。「私を治してくれたのはこの方（イエス）です。」そして、イエスは宮で偶然彼を見かけ、彼にこう言われたのです。よく聞いてください 。
ヨハネ　5
14 見なさい。あなたは良くなった。（癒された）もう罪を犯してはなりません。そうでないと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。
あなたがそんな病気になったのは、あなたの罪のせいだという意味です。主はこうは仰っていません。「罪のない人になりなさい。」そうではなく、「もうその罪を犯してはなりません。」井戸の女に主が仰られたのと同じです。「行って、もう罪を犯してはなりません。」いえ違う、井戸の女ではなく、姦淫現場の罪で捕らえられた女です。そして、主は彼女に仰られるのです。

「行きなさい。これからは、決して（その）罪を犯してはなりません。」（ヨハネ　8：11）
聞いてください。栄光のこちら側で罪がないことなんてありません。しかし、聖霊が私たちに宿ってくださり、私たちに罪がないのではなく、罪を犯すことが少なくなります。皆さん、分かりましたか？　言葉遊びに聞こえるでしょうが、しかし聖霊が宿り、力を与えて下さる事で、聖化し、再生する過程の一部です。では、なるべく時間を置いておきたかったのですが、予定通り行きませんでした。この最後に時間がかかるからです。
5 つ目。17 節と 18 節です。祈りが、「神の奇跡」をもたらすほど強力なものであることと関係があります。さて、ここでヤコブは、またしても旧約聖書の例から引用しています。今回は、私が大好きな神の人の一人、エリヤです。聖書に記されている神の人全員をそう言っていますが、エリヤに会うのが待ちきれません。つまりこの人、聖書の記述から、その人柄を少し知ることができるんです。バアルの預言者たちとの戦いの後、彼は信仰の危機に陥り、イゼベルに命を狙われ洞窟に隠れていました。主は彼の前に現れました。火や地震や風の中ではなく、静かで小さな声で現れ、彼に尋ねます。「何をしているのですか？」そのまんまです。主はそのまま仰いました。
「エリヤよ、ここで何をしているのか」（第一列王記　19：9）
エリヤはこんな感じです。「え～ん、誰もが膝を屈めてしまって、、、」主は、仰られます。
「エリヤよ、エルサレムにはあなたのようにバアルに膝屈めない者が 7000 人いるのです。」
（第一列王記　19：18）
とにかく、、、話が逸れ過ぎました。しかし、ヤコブはこの記述を持ち出します。「エリヤが祈ると雨が止んだ。」そしてまた祈ると、、、3 年半の干ばつが続いていて、すべてが死に絶え、誰もが死んでいきます。彼が再び祈ると、雨が降り始めます。OK。何がそんな良い事なのか？　つまり、私たちが話しているのはエリヤですよ。ええ、ここで締めくくりますが、17 節に興味深い詳細が書かれているんです。17 節で、ヤコブが「エリヤはあなたや私と同じ」と指摘したことを除けば、私たちは今すぐ終わって家に帰れます。お～どういう意味ですか？　ええ、もし皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、笑ってくれてありがとう。エリヤをはじめ、神の御力ある人たちの話を見ると、「だって、エリヤでしょう？」ってなりませんか？　彼は、皆さんや私と同じだけでなく、もっと悪いかもしれませんよ。つまり、神の奇跡を、「あら当然、だってエリヤだから。」という旗印で片付けてはいけないのです。違います。それはあなたかもしれません。今なお、あなたかもしれない。なぜならエリヤはあなたと同じだから。皆さんと何の違いもありません。叫んでごめんなさい。
「牧師さん、何を言ってるんですか？　いつも叫んでいますよ。」しかし、エリヤはただの人でした。彼は私たちと同じ様に、パンツを履いていますよ。もちろん、今のようなパンツがあるわけではありませんが、要点は分かりますよね？　彼は私たちと同じでした。彼は疑いや問題や悩みを抱えていた…　悩み、、、その話には行きませんが。皆さん、それについてはご存じですよね。私たちは皆、悩みを抱えています。つまり、彼は私たちと同じ人間でした。つまりポイントは、エリヤがアクセスしたのは、彼のように私たち自身がアクセスできるものだということです。「祈り」です。いや、でも神は……あれはエリヤだもん。エリヤだからの祈りに応えられるんですよ。なんといってもエリヤですからね。さて、これはどうでしょう？　ボブ。なるほど、あまりうまくいきませんね。ー(笑)ー　彼は普通の人です。何がそんなに特別なんですか？「祈り」です。祈りは、普通のエリヤ、JD、ボブ、誰であれ、とてつもないことをします。祈り。とても力強いのです。

私は、このことに関して、私自身を含めて、お伝えしたいと思います。というのも、私はこの件に関して、他の人と同じように、誰よりも雑なアガペー（愛）になりがちだからです。しかし、これは一種の挑戦で、質問という形で投げたいと思います。あなたが最後に、神に何か信じられないようなこと、神しか御出来にならないようなことをお願いしたのはいつでしたか？　時に私たちは、あんな大きな神に小さ過ぎる祈りを捧げてしまいますよね。私はこの描写が大好きです。何年も前に聞いたことがあり、ずっと心に残っていたのですが、本当にその通りだと思います。ここに全知全能の天の神がおられます。天と地と海とその中にあるすべてのものの創造主。あの星々を飛ばされたのは主で、主はそれら１つ１つを知っておられます。主は、私たちには到底数えられない物を、数えられるだけでなく、実際に名前をつけられ、私たちとは違って、名前も覚えておられます。そして、主は待っておられます。
「よし、JD が祈るぞ。ガブリエル、ミカエル、こっちへ来なさい。 JD が祈るぞ。さあ、聞こう。準備できたか？　よし、大丈夫だ。彼の願いが何であれ、どんなに突拍子もないことでも、どんなに大きなことでも、我々はそれを実行するのだよ。わたしに栄光をもたらすのなら、君たちは降りて行って、それを実現させなさい。さあ、来るぞ。準備はいいか？シーッ、みんな静かに。」天の静寂。私が祈ります。
「天のお父様。この食事を私たちの体を祝福してください。」ー(笑)ー「あ～誤報だった。君たちは戻りなさい。次の機会に言うよ。」ここです！　そう、だからあの描写が好きなんです。皆さん、分かりましたか？　私はここで祈っています。つまり、コストコのイヴィレイの駐車場を祈ることは悪いことじゃないのですが、ー(笑)ー　主にとって不可能なことはないですよね？　少なくとも、シャトルバス利用のエバ・ビーチ・パークに行かなくてもいい近場がいいんです。しかし、最後に神に奇跡を願ったのはいつですか？　神がはスタンバイして待っておられるのです。「わたしに求めなさい。」実際、主はそうされたいのです。主は、それをするのを待っておられます。「神よ、これは不可能です。」「不可能と言いましたか？　お！お！お！　わたしは不可能を可能にする神です！　わたしを見ていなさい。」
ええ、全てが乾いていき、雨が降ってくれないと。「あなたの名前はエリヤですか？」「あなたがエリヤでないなら、わたしには出来ない。」「そう、わたしだけだよ、JD。」ああ、そうですか。「充分な信仰心を持っていますか？いいえ、それもありません。「告白していない罪があるのですか？」いいえ、それもありません。あなたが最後に神に奇跡を願ったのはいつですか？「神よ、奇跡が必要です。」「わたしは、たまたまそういう仕事です。たまたま、そういう系統で、わたしは奇跡を起こす神です。」もう一歩踏み込んで、締めくくりましょう。今、あなたの人生で何が起きているのか、その状況、一連の事情はとても複雑で、とても不可能で、とても難しく、とても辛く、主は知っておられ、あなたは奇跡が必要です。もし、あなたがエリヤのように、彼と同じ力の源にアクセスするだけで、何が変わるでしょうか？　何が変わりますか？　何が変わりますか？　神がなさられたくないと、思っているのですか？
「まあ、私はあまり良くありませんし、しばらく御言葉を聞いていないですからね。」いいえ、そういう仕組みではありません。そういう仕組みではありません。しかし敵は、私たちを騙して、私たちには奇跡に値すると思わせています。違います。ちなみにエリヤは罪びとでした。午後を台無しにしなければいいのですが。しかし、彼は私たちと同じように罪びとだったのです。それでも神は、彼が祈ったからこそ、このようなことをなさいました。それほど祈りには力があるのです。
カポノ上がってきてください。お立ちください。祈って締めくくります。私は、、、私自身も含めてですが、祈りの見方が変わることを願います。
主よ、私たちをお赦しください。「祈り」と呼ぶものにアクセスしないことを。

主よ、私たちをお赦しください。「神は私のためにそんなことをしてくださらない。」と思っていることを。
主よ、私たちが誰だからとか、私たちがどれだけ優れているかではなく、あなたがどういうお方で、どれ程良いお方であられるかであり私たちの祈りに答えて下さるの事を感謝します。
主よ、私はただ、敵にやられ、あなたの恵みの御座から遠ざけられている人のために祈ります。今日が力強い祈りの生活の新しい始まりとなりそのために人生が変わることを祈ります。
主よ、祈りに感謝し、祈りの力に感謝します。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7